

大原の里と比良の山

大原のオオムラサキを守る会
蓬萊むしの会
第25号 2026.4.10

イグアスの自然と美しいチョウたち

的場 亮一

いつのことだったか、イグアスの滝のしぶきに現れたブロッケン現象の写真を見たことがあった。雲の上を飛ぶ飛行機の窓から、窓の下真っ白な雲に映るまん丸い虹とその中央に機体の影がみえるブロッケン現象は何度か見たことがあるが、滝でのケースは見たこともなく、いつか現地でみてみたいと思っていた。

もう10数年前になるが、ブラジルの友達に会いに行ったついでに、イグアスの滝にブロッケン現象を観に行った。

ブロッケン現象とは天気の良い日に太陽を背にして自分の前に霧やミストがあるときに、自分の影と丸い虹の輪がみえるもの。よく雲海が広がる高山の山頂でも観かけるようだ。

前日に現地の日の出時刻と地形とミストの具合を確認し、当日早朝にホテルから歩いて数分の現地に向かった(図1)。現地は滝を流れ落ちる膨大な水のせいか、強い風が吹いていたが、予定通り観光用の展望デッキ先端に到着(図2の右にある先端)。

早朝でもあり、展望デッキには人影も皆無。まもなく陽が上り始めたらしく遠くはすでに明るく照らされ始めた。と、突然目の前に虹が出始めた。太陽がまだ東側の木々の合間から出てきたばかりで、とても低い位置だったので、狙い通りにほぼ円に近い虹だ。あたりに誰もいなかったこともあり、「これ、これ！これが観たかった！」と、思わず大声で口にしたことを覚えている。もっともミストが薄いせいで、自分の姿ははっきりしなかったが、ひいき目で見ると虹の円の中心部に、暗くカメラを構える自分の姿が写っているかのように見える(図3)。

ブロッケン現象を観られ、写真にも撮れたことに大満足し、ホテルに戻りプールわきのテーブルで、スタイルのいい水着姿の女性客たちを眺めながらのんびりと朝食をとり、再度ゆ

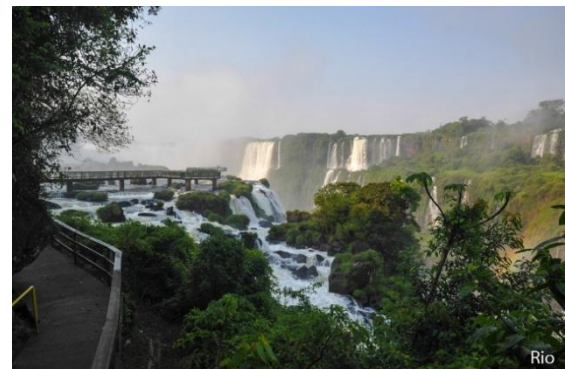


図1 展望デッキへ向かう



図2 展望デッキ



図3 見たかったブロッケン現象



図4 ナンバイタグリ、アカハナグマ、アルゼンチンブラックアンドホワイトテグー

つくり滝を観に行った。ナイアガラの滝とは比較にならないほどで、規模がとてつもなく大きい。よくまあ、こんなに水があるものだと、あきれてしまうくらいだった。ちょうど雨季が始まったばかりで、まだ雨には降られてはいないものの、既にアマゾンの奥地ではまとまった雨が降っているらしく、水量も豊富で迫力満点。近くには初めて目にするアナグマの仲間のような動物や初めて見る鳥や大きなトカゲなど、なぜかどれも人間を怖がらずに近くで観ることができ、すぐに逃げる日本の動物とは違う印象を受けた(図4)。

そのあと、アルゼンチン側から眺めるために、ハイヤーでアルゼンチンに向かった。友達が世話してくれた運転手は前日飛行場からホテルまで乗せてきてくれた気のいい男で気に入り、この日も運転手兼ガイドとして付き合ってもらった。ブラジル側でも時々目にはしていたが、アルゼンチンに入りたくさんの色鮮やかな蝶がたくさん目に付くのにびっくり。有名な「悪魔の喉笛」にむかい、国立公園内のトロッコ列車に乗っていくのだが、そのトロッコ列車の駅でもたくさんの人懐っこいチョウを見かけた。塩分でも摂取しているのか、よく観光客の肌にとまっては口吻をのぼしていた。私の手の甲にとまった時は、不自然な体勢で片手でカメラのシャッターを押す際に結構動いたにも拘わらず、とまったままだった。さらに熱帯の林の中を走っていると、面白いことにおそらく50~100頭もの大きさもキタキチョウくらいの黄色いチョウが、まるで観光客を歓迎でもしているかのように10頭前後の群れになって、いくつもの群れがトロッコ列車のそばを、いつまでもいつまでも飛びながらついてきていた(図5)。

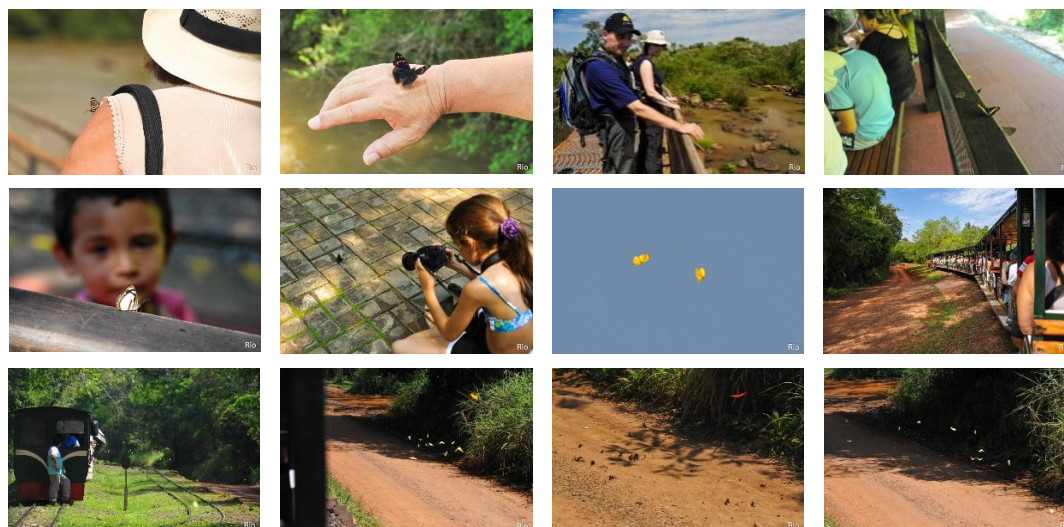


図5 人懐っこいチョウたち

以下に現地で見かけた美しいチョウを並べてみた。ネットでこれらの名前を調べたが必ずしも正しいとは思えず「同定」には程遠いが、わかった範囲で参考に記した。



↑ ダイナミネ・アルテミシア
(*Dynamine artemisia*)
タテハチョウ科



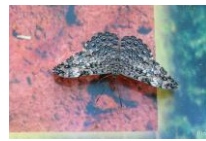
↑ ウラモシタテハ (*Diaethria neglecta*)
タテハチョウ科
現地ではみでの通り文字通り「Eighty eight」と呼んでいた



↑ レテキオピアカタテハ
(*Hypanartia lethe*)
タテハチョウ科



↑ チャイロカスリタテハ (*Hamadryas februa*)
タテハチョウ科カスリタテハ属



↑ エラートドクチョウ (*Heliconius erato*)
タテハチョウ科ドクチョウ亜科



↑ アカヘリタテハ
(*Biblis hyperia*)
タテハチョウ科



↑ これも
ウラモシタテハ



↑ ベニオピタテハ ♀
(*Anatia amathea*)
タテハチョウ科



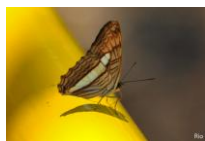
↑ アガティーナアメリカコムラサキ
(*Doxocopa agathina*)
タテハチョウ科



↑ これも
レテキオピアカ
タテハ



↑ 和名不明 (*Adelpha syma*)
タテハチョウ科



↑ アカガネタテハ
Dynamine postverta
タテハチョウ科



↑ シャクガ科の
エダシャクの仲間と
思うが、よくわから
ない

図6 イグアスの美しいチョウたち

私の虫採り物語 (5) 岩倉のギフチョウ

小松 清弘

春が近づくとチョウ屋はそわそわし出す。今シーズンはどこにギフチョウを見に行こうかと資料を探し計画を練る。ギフチョウ採集は毎年の恒例行事である。ご多分に漏れず私もその一人である。でも、チョウの採集を始めた頃は全くといっていいほどギフチョウ採集には興味がなかった。

ギフチョウについて知ったのは中学校に入ってすぐにチョウ好きの同級生と出会い話した時だった。その同級生はギフチョウの卵を採集して飼育するとのことだった。産地は岩倉の村松で杉林の中のあるカンアオイの葉の裏に卵がついていると教えてくれた。

早速教えてもらったところへ行ってみた(図1)。岩倉の西にある権土池の近くの細い林道だった。杉林の中をしばらく行くと開けて光が差し込む場所があり、林床にはミヤコアオイが生えていた。葉を裏返して見ていく。何枚目かを裏返そうとしたら指に粒々の感覚があった。葉の裏を見ると薄く緑がかかった真珠のような卵がきれいに並んでいた。

近くを探すと卵塊は結構見つかった。卵とアオイの葉を持ち帰って飼育した。初夏には黒い毛虫のような終齢になった。その旺盛な食欲に何度も葉を取りに通ったかいたがやってやっと蛹になってくれた。植木鉢に砂を入れその上にミズゴケを敷き、蛹を並べ口をガーゼでふたをして日陰の木の下に埋めて板を載せて春まで置いておいた。

春になって鉢から取り出して羽化させた。蛹の殻を破って出てきた成虫が歩き回って羽化場所を探し、静止して翅を伸ばしていく。羽化直後の翅の美しさに見とれたことを覚えている(図2)。

以来、毎年採卵して飼育した。高校生になって蝶から星に寄り道したこともあり成虫を採ろうという思いはなかった。飼育した個体がたくさんあったのも原因かもしれない(図3)。

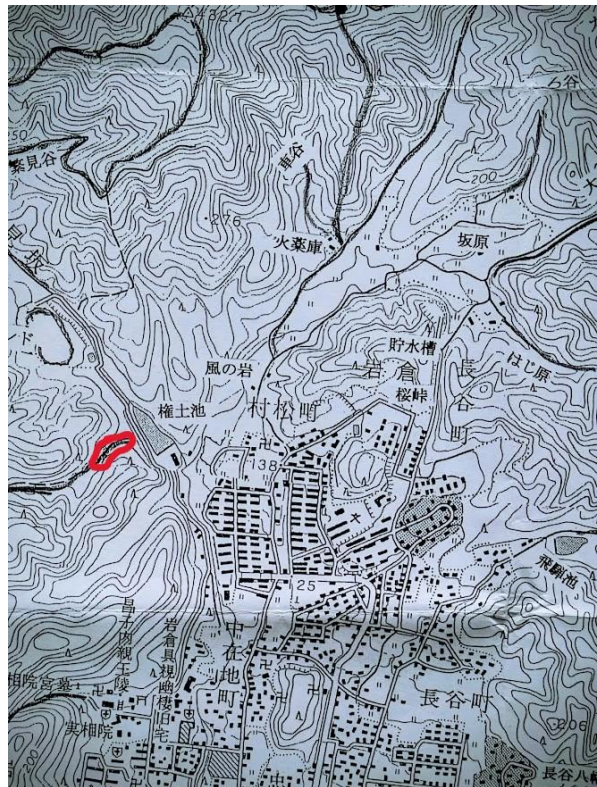


図1 岩倉の地図(採卵地)



図2 岩倉産ギフチョウ

大学に入ってチョウの採集を再開した時もギフチョウにはあまり興味はなかった。ただ本などで岩倉がギフチョウの一大産地であることを知り産卵の状況を調べたことはある。有名な岩倉の東部の花園町や長谷町あたりでは卵が見つかったが、西部の上蔵町あたりも劣らず多かった。伐採地では 200 卵以上を確認したこともあった。人家のすぐそばや道路のそばでもたくさん見つけることができた。

その後、科学センターに勤務するようになってギフチョウ採集に本格的に取り組むようになり、北陸などの産地に出かけて採集した。でも岩倉へは相変わらず採卵に行くだけで成虫採集にはほとんど行かなかった。

そうするうちに急に卵が見つからなくなった。そして 1990 年代の後半には岩倉からギフチョウの姿は消えてしまった。ミヤコアオイはたくさんあるのに卵は全くついていなかった。岩倉産のギフチョウをもっと採っておくべきだったと思ったがあとの祭り。いまだに残念でならない。



図3 岩倉産ギフチョウ（1971年飼育）

大原 いのちの季（とき）

卯月

ニリンソウ

網室周辺では春になると白いニリンソウがたくさん見られます。

ニリンソウはキンポウゲ科の多年草で、林の下などに群落をつくります。葉は五角形で 3~5 裂の深い切れ込みがあります。葉には白い斑紋があります。春に茎の先についた葉から 2 本の花茎を伸ばし先に 2 cm ほどの白い花をつけます。白い花びらのように見えるのはガクなのです。2 輪の花が一緒に咲くことはまれで数日の間隔を空けて咲きます。ニリンソウといいますが、一輪や三輪のものも見られます。イチリンソウやサンリンソウという別種もあるのでややこしいです。

ニリンソウは山菜としても利用されます。若葉を茹でてからおひたしや和え物にします。ただ、ニリンソウは猛毒のトリカブトやウマノアシガタによく似ているので十分注意してください。中毒を起こしたニュースを耳にすることがあります。



早春にだけ見られる生物をスプリングエフェメラル（春の妖精）と呼ぶことがありますがニリンソウもその一つです。（文 小松清弘 写真 的場亮一）

「大原の里と比良の山」2025 年度総目次

第13号 2025.4.10

私の虫採り物語 (2) 懐かしの宝ヶ池	小松清弘	1
チョウから見た大原の環境	大原のオオムラサキを守る会	3
「大原の里と比良の山」2024 年度総目次		4
3月おもな活動の報告	奥谷 功・的場亮一	6
あとがき・目次		8

第14号 2025.5.10

医王山訪問	塩尻 哲	1
チョウから見たびわ湖バレイスキー場の環境	大友正生	3
活動20周年記念展示を終えて	藤野適宏	5
トンボから見た大原の環境	大原のオオムラサキを守る会	6
4月おもな活動の報告	奥谷 功・小松清弘・大友正生	7
あとがき・目次		8

第15号 2025.6.10

麝香揚羽天国計画 『お家でジャコウアゲハ』	大友正生	1
往時のびわ湖バレイを振り返る	藤野適宏	2
活動20周年記念展示「昆虫から見た大原の自然」来場者アンケートの結果と考察	村上 豊	3
5月おもな活動の報告	小松清弘・大友正生・奥谷 功	7
あとがき・目次		8

第16号 2025.7.10

私の虫採り物語 (3) 貴船の標本	小松清弘	1
宇治川堤防のモンシロチョウ	藤野適宏	2
6月おもな活動報告	奥谷 功・大友正生	6
目次		8

第17号 2025.8.10

フジの種子散布	藤野適宏	1
びわ湖バレイにおけるアサギマダラ卵の追跡調査	藤野適宏	2
フジバカマ あれこれ	藤野適宏	4
7月おもな活動報告	奥谷 功・木村幹雄・大友正生・村上 豊	5
あとがき・目次		6

第18号 2025.9.10

医王山ゼフィルス採集記	上田諒太	1
ドングリ園はチョウの楽園	藤野適宏	4
つのがないオオムラサキの幼虫頭殻	大原のオオムラサキを守る会	5
8月おもな活動報告	奥谷 功・大友正生	7
あとがき・目次		8

第19号 2025.10.10

麝香揚羽天国計画 『お家でジャコウアゲハ』その後	大友正生	1
私の虫採り物語 (4) オオムラサキとの出会い	小松清弘	2
今年も咲いた裏山のササユリ	木村幹雄	3
ギンカクラゲ	藤野適宏	4
9月おもな活動報告	小松清弘・奥谷 功・大友正生	5
あとがき・目次		6

第20号 2025.11.10

安曇川水系流域のシコブチさん その1	的場亮一	1
2025年の飼育網室内オオムラサキの羽化数とその性比について	大原のオオムラサキを守る会	4
チビのキマダラセセリとチビキマダラセセリ	藤野適宏	7
10月おもな活動報告	奥谷 功・小松清弘・大友正生・藤野適宏	9
あとがき・目次		10

第21号 2025.12.10

安曇川水系流域のシコブチさん その2	的場亮一	1
麦酒	上田寿一	5
大原のアサギマダラ標識調査報告 (2025年度南下移動期)・大原のオオムラサキを守る会		6
11月おもな活動報告	小松清弘・奥谷 功	9
あとがき・目次		10

第22号 2026.1.10

安曇川水系流域のシコブチさん その3	的場亮一	1
ミチノクにヒメを探して—ミチノクヒメギフチョウ採集記—	小松清弘	6
2025年 飼育網室内オオムラサキ越冬幼虫一斉捜査の結果・大原のオオムラサキを守る会		8
12月おもな活動の報告	奥谷 功・小松清弘	10
あとがき・目次		10

第23号 2026.2.10

私の虫採り物語 (5) 杉峠とヒサマツミドリシジミ	小松清弘	1
大原 いのちの季 (とき) 如月 フユイチゴ	小松清弘・的場亮一	2
山田池公園の蛾たち～トイレ廻りでモス・ワッチング～	村上 豊	3
オオムラサキの越冬齢期についての記載の変遷	藤野適宏	9
1月おもな活動の報告	奥谷 功・小松清弘	10
あとがき・目次		10

第24号 2026.3.20

遊蛾党へのお誘い	村上 豊	1
大原 いのちの季 (とき) 弥生 ホトケノザ	小松清弘・的場亮一	2
花長下神社のヒメハルゼミ	藤野 適宏	3
雪の大原	藤野 適宏	9
2月おもな活動の報告	小松清弘	10
あとがき・目次		10

<3月おもな活動の報告>

◆3月4日(水) 10:00～ (報告者:小松)

○参加者 藤野、木村、塩尻、的場、村上、小松 計 6名

○活動内容

- ・会議 ①本日の活動内容 ②頭殻測定の結果
③やましろ里山の会イベント紹介 ④ハンドチェーンソーの修理
⑤里トラの報告提出と資材費・日当の受け取り ⑥セブンイレブン助成金の報告準備
- ・作業 ・腐葉土ピットの設置 ・剪定枝の処理
・網室内のエノキへの越冬幼虫投入 ・戸寺のフジバカマ畑への油粕散布

◆3月11日(水) 10:00～ (報告者:小松)

○参加者 藤野、木村、塩尻、的場、村上、小松 計 6名

○活動内容

- ・会議 ①本日の活動内容
②セブンイレブン助成金の報告書作成の役割分担(月末完成を目指す)
③里トラへの報告 ④里トラ久保代表の依頼事項
⑤里トラの報告提出と資材費・日当の受け取り
⑥大原学院へのお礼 ⑦頭殻測定の結果
- ・作業 ・網室横のエノキの剪定と剪定枝の処理

◆3月18日(水) 10:00～ (報告者:小松)

○参加者 藤野、木村、的場、村上、大友、小松 計 6名

○活動内容

- ・会議 ①本日の活動内容 ②2026年度セブンイレブン助成金の採用決定
③里トラ久保代表への返答
- ・作業 ・網室内の幼虫の観察 ・網室周辺のエノキの袋への幼虫投入 ・剪定枝の処理

◆3月25日(水) 10:00～、13:30～ (報告者:藤野)

○参加者 木村、的場、村上、大友、藤野 計 5名

○活動内容

- ・会議 ①本日の活動内容 ②セブンイレブン報告書作成の進捗状況
- ・作業 ・網室内の幼虫の観察 ・幼虫を入れた洗濯袋(大)の野外エノキへの取り付け
・剪定枝の処理(以上午前) ・セブンイレブン旅費報告書の検討
・セブンイレブン報告写真の追加撮影(以上午後、於:文化センター)

= 目 次 =

イグアスの自然と美しいチョウたち	1
私の虫採り物語(5) 岩倉のギフチョウ	4
大原 いのちの季(とき) 卯月 ニリンソウ	5
「大原の里と比良の山」2025年度総目次	6
3月おもな活動の報告	8
目次	8

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会 2026年4月10日 第25号

H P 大原のオオムラサキを守る会 <https://ohara-omurasaki.com/>

大原のオオムラサキを守る会代表 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町54 小松清弘

蓬莱むしの会代表 〒520-0105 大津市下坂本1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西川原21-151 藤野適宏